

「前立腺癌の術後追加療法の最適な開始時期に関する
数理モデルを用いた後ろ向き研究」

ご協力をお願い

〔研究の意義と目的〕

前立腺癌の手術をした後に再発した場合、ホルモン療法や放射線療法が追加で行われる場合があります。しかし、この際にホルモン療法や放射線療法等の追加療法をいつ開始するのが最適なのか、また、ホルモン療法が効かなくなる再燃状態を最も遅らせる為には術後いつ追加治療開始するべきかという問題は臨床でも重要ですが、結論は出ておりません。

前立腺癌の進展や再発の程度を測る指針として、前立腺特異抗原(PSA)は有用な腫瘍マーカーとして広く知られております。この研究の目的は、過去の前立腺癌患者から得た術後の PSA 値のデータと、以前の研究で構築された PSA の変化を記述する数理モデルとを合わせることで、術後追加療法の最適な実施時期を同定する数理的手法を構築することです。

今回の研究は、前立腺癌の手術後に PSA 値が上昇してきた場合にいつ追加療法をすべきか調べる初めての研究です。この研究を通じて、将来、前立腺癌の手術後に追加療法を受ける方々の利益につながると期待されます。

〔研究の対象と内容〕

今回、研究の対象となるのは、当院において過去に前立腺癌の摘出手術を受けた患者さんです。具体的には前立腺癌に対する手術を受けた手術日、その後の PSA 値の数値データと追加療法を開始した日時などを提供していただくこととなります。なお、今回の研究は診療録（カルテ）から上記に該当するデータを収集するのみで、研究に協力することによって、皆様に危険や負担がかかることはありません。この研究に参加されることによって追加で検査などを行うことはありません。収集した情報は、当院で責任を持って個人が特定できないような形にしたうえで、本研究のデータセンターに送付され、集計が行われます。

〔研究協力への同意〕

今回の研究では、皆様からとくに連絡がない場合には、診療録（カルテ）から得られた情報を研究のために利用させていただきたいと考えております。もし、本研究にこのような情報を提供したくない方がいらっしゃいましたら、どうぞご遠慮なく担当医師までご連絡ください。

たとえ本研究への参加をお断りになっても、当院の診断・治療において不利な扱いを受けたり、本来受けるべき利益を失ったりすることはありません。

〔より詳しい情報が必要な方へ〕

当院泌尿器科の担当医師にご相談ください。個別に対応いたします。

【連絡先】

研究責任者：福原 浩

連絡担当者：福原 浩

〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学医学系研究科 泌尿器科学

Tel: 03-5800-8753 Fax: 03-5800-8917